

# FMくしろ「難病連だより」1月21日 am8:05 出演しました

FMくしろで放送中の「難病連だより」に網膜色素変性症の患者会が出演しました。出演は村上かずしげ議員と患者本人のKさん。放送時間は21日午前8時5分です。

キャスターの質問に応える形で番組は進行します。

「網膜色素変性症はどんな病気ですか？」

「症状は暗いところで見えにくいこと。視野が狭くなること。視力はだんだん下がります。原因と治療法はまだわかりません。」(村上かずしげ)



「どんなことで困っていますか？」

「この頃は何処に行っても自動精算機ですが、様式が統一されていないので目に障がいがある人は使い方がわからず、困ってしまいます。また、雪で外の景色が真っ白になると、境目がわかりません。冬は歩くことも控えています。」(Kさん)

「それと今は夫と二人暮らしで何とかやっていますが、主人に先立たれたらひとりでは暮らせません。子どもに迷惑もかけられません。目に障がいのある人のための高齢者施設もあるので、が、釧路にはありません。ぜひ、近くにつくってほしいと思っています。」(Kさん)

「患者会に出会って救われたと聞きました。が・・・」

「以前は目が不自由なのでよく失敗して落ち込んでばかりでした。でも患者会に出会って、ここには仲間がいる、

みんなおんなじ失敗の繰り返しなんだとわかると気持ちがあがります。以来、集まりがあると夫と二人で欠かさず参加しています。」(Kさん)



「最後に視聴者にメッセージを。」

「私もなかなか人に頼ることができず、困ってばかりです。気軽に「助けて」と言えればいいのですが、ためらってしまいます。近くで困っている人を見たら、ぜひ声をかけてください。」(Kさん)

「この病気が進行が遅いので、途中で目が不自由になった人が大半です。でもそうなるでも生活の質は何とかよくしたいというのが私たちの会の目的です。ぜひ、困っている方は問い合わせください。」(村上かずしげ)

「ありがとうございました。」

私がこの番組に出るのは数年ぶりです。私達の会が、患者さんにとって、「大切な拠り所」となっていることを再確認でき、とても感動しました。一緒に出てください。Kさん、本当にありがとうございます。

番組の中で、暗所視支援眼鏡(患者の方が暗いところでも普通に見えるように開発された眼鏡)への公的な支援を求めている活動も紹介させていただきました。今年も、ぜひ実現したいと思っています。

## 支所の存続を求める署名を一生懸命集めています

来年2月末に、市は大楽毛・桜ヶ岡・春採の3つの支所と、コアかがやきの鳥取支所分室を廃止する計画を立てました。

そこで、支所の存続を求める「会」が結成されて、1月から各地で支所の存続を求める署名活動が始まっています。村上かずしげ議員は、大楽毛地域を中心に、大楽毛の「会」のみなさんと力を合わせ、署名集めに歩いています。



どこでも署名は大歓迎されます。その一端を紹介します。

◆私はコンビニを経営しています。お店でも住民票が取れますが、だからと言って支所を無くすことは別。支所をなくしたらたくさんのお年寄りになります。」

◆「私は若いのですが、足が不自由で運転免許もありません。支所がなくなら困ります。」

◆「私はマイナンバーカードはもっています。でも機械を操作して自分で住民票を取るなどできません。」  
◆「これからは、身近にある支所を充実して、市役所全体はスリムにした方がよいではありませんか。」

ぜひ、周りの方にもお知らせください

## 住民税非課税世帯に10万円の給付金の申請書が届いています



先週の市議団だよりでご案内したように「住民税非課税世帯等臨時特別給付金」10万円の申請書(確認書)が17日から非課税世帯にいっせいに送付されています。市役所から書類が届いたら、すぐに申請の手続きをしてください。

また生活保護世帯も対象で、この給付金をもらっても保護費が減らされることはありません。

課税世帯でもコロナなどが原因で収入が減り、非課税世帯と同様になった場合には10万円が給付されます。しかし、こちらの場合は申請書は送られてきませんから、自分で役所に行って手続きをします。詳しくは、党議員団(23-5212、22-612)にお問い合わせください。

